

ConTime Group Calendar

for Microsoft(Ver.3.0.0-)
セットアップマニュアル
クイック & ステップ バイ ステップ

OnTime Group Calendar Direct Shop 2019/04/17



本マニュアルについて



- このマニュアルは「2018年 Microsoft Tech Summit 2018」と「第23回 Office 365 勉強会」で準備した資料からVer.3.0に合わせて合体加筆修正した内容となります。
 - 「2018年 Microsoft Tech Summit 2018」についての弊社ニュースリリース https://ontimesuite.jp/news-20181129/
 - 「第23回 Office 365 勉強会」についての弊社ニュースリリース https://ontimesuite.jp/news-20181126/
- ページによってはつながりがわかりくい箇所もあるかも知れませんがご容赦下さいませ。
- 近くVer.3.5をリリースしマニュアルも刷新する予定です。
- それまではこちらの資料をご参考にして頂けますようお願いいたします。
- ご不明点は何なりとshop@ontimesuite.jpまでご連絡下さいませ。
- 2019年4月17日



目次



• OnTimeとExchangeの準備	p.4
• OnTimeサーバーの為に「SQL Server」のインストール	p.7
OnTimeサーバーのインストール	p.11
• OnTime 管理 Centerで設定	p.14
• (参考)OnTimeがサポートする認証の種類	p.23
OnTimeクライアントを起動します	p.47
• OnTimeサーバーのその他の設定	p.53



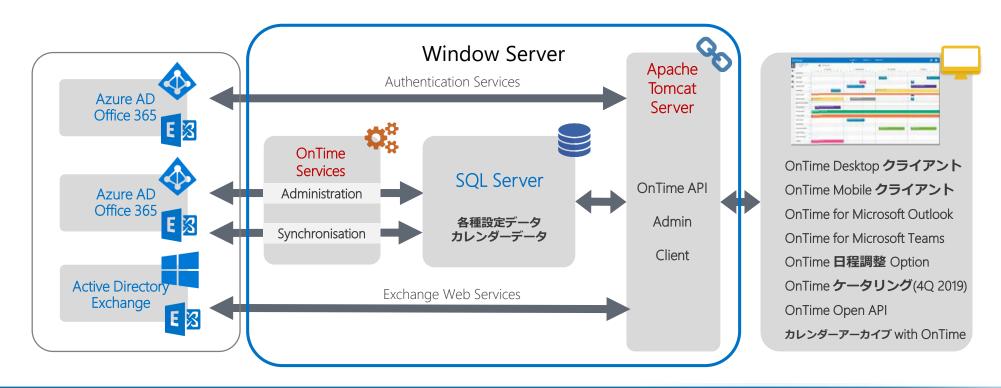
OnTimeとExchangeの準備



OnTime for Microsoft サーバー構成



- Windows Server であたかもプロキシーのように動作します
- オンプレとOffice365のダブル対応、サーブレットによるサーバー実装
- 将来IBM版とコード共通化のためOffice365テナント(ドメイン)から独立した構成



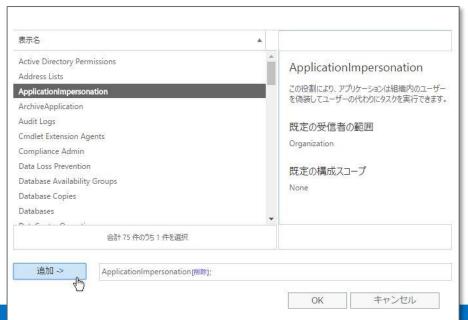


Exchange側の設定と準備



- 偽装ユーザー(Impersonation User)について
 - OnTime for MicrosoftをExchange OnlineやオンプレのExchangeに接続する際に、全ユーザーをImpersonation(日本語で演技や偽装)してスケジュールデータの入出力を行う1人のユーザーアカウントを指します。

詳細は以下のURL参照 https://www3.ontimesuite.jp/impersonation/



同期対象について

- OnTime for MicrosoftをExchange Onlineや オンプレのExchangeと同期させる際に対象となるユーザー、会議室、備品を選択する必要があります。以下のどちらかを選択出来ます。
- グループメールアドレスでの登録
 - OnTimeでは配布グループ、アドレス付きセキュリティグループにて指定できます。
 - 作成する際、「このグループをアドレス一覧に表示しない」 のチェックは必ず外してください。
 - OnTimeではExchangeから取得出来る一般的な属性を利用できます。
- LDAPでの登録
 - LDAPもしくはLDAPsによるADもしくはAADからの指定。
 - Directoryからの直接抽出なのでカスタム属性やフリガナ 属性などもOnTimeに取り込むことが出来ます。 AzureAD Connect等を利用している組織であればご活 用頂けます。





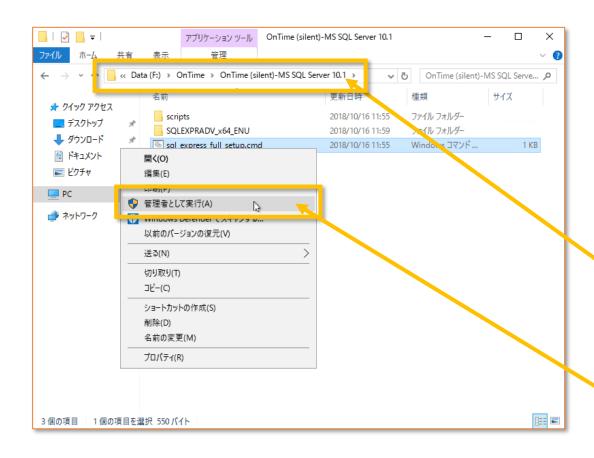


OnTimeサーバーの為に「SQL Server」のインストール



OnTime用SQL Serverのインストール





- OnTimeではバックエンドのデータストアとしてSQL Serverを使用します。
- 簡易にインストール出来るようサイレントインストール用スクリプトファイルを準備しています。以下のリンクからダウンロードして展開してご利用ください。
 http://file.ontimesuite.com/SQLExpress
- SQL Serverのインストールは10分程度掛かるので先に行っておきます。

エクスプローラーを開き、展開したフォルダに移動します。

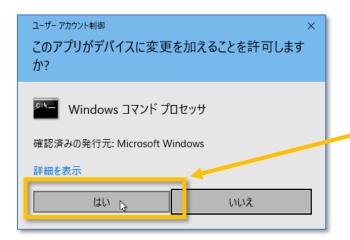
展開したフォルダ¥OnTime (silent)-MS SQL Server 10.1

"sql_express_full_setup.cmd"を選択します。
マウス右ボタンメニュー「管理者として実行」を選択します。

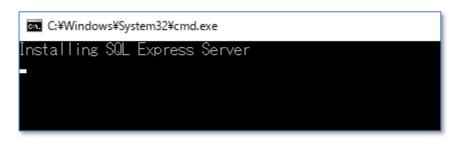


SQL Serverのインストール画面





インストールの確認画面(UAC画面)が開きますので「はい」を クリックします。

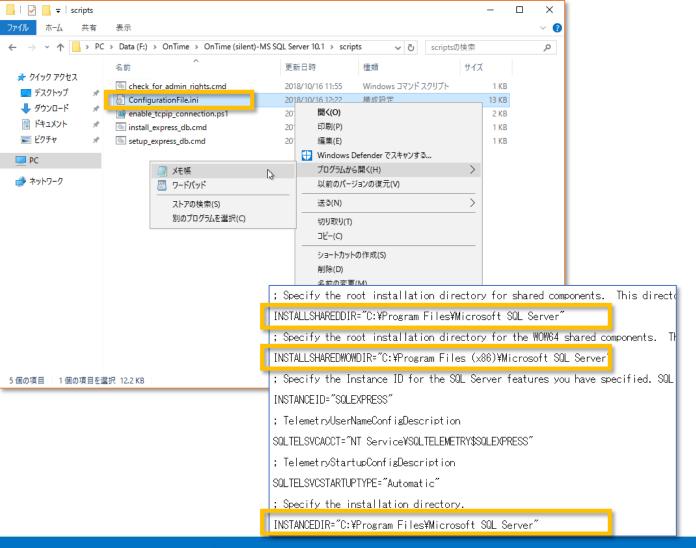


- スクリプトが実行されている画面が出てきますので閉じずに そのままお待ちください。インストールが完了しますとコマンド プロンプトは自動的に閉じますのそのまま置いておきます。
- インストールは通常5分から10分程度で完了します。



(参考)SQL Serverをインストールするドライブの変更 *(*)





- ScriptフォルダにはSQL Serverをサイレントインストール出来 るように各種cmdファイル、sqlファイルが準備されています。
- インストール先がAzure VMの場合はデータディスクはE:ドラ イブ以降を推薦されていますのでインストール先を変更する 場合はパラメーターが記載されているコンフィギュレーション ファイルの内容を変更する必要があります。
- インストールフォルダを変更したい場合はコンフィギュレーショ ンファイルを変更してください。
- scriptフォルダを開きます。
- "ConfigurationFile.ini"ファイルをメモ帳などのテキストエ ディタで開きます。
- エディタの検索機能を使用して3つの"C:"の箇所を"E:"等 のご希望のドライブに変更します。



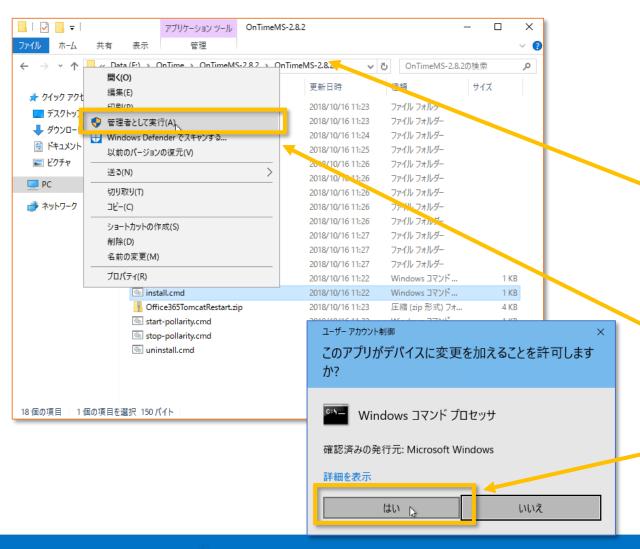


OnTimeサーバーのインストール



OnTimeサーバーのインストール





- 次にActive Directoryの認証を必要とするアプリとして 「OnTime Group Calendar for Microsoft」をインストールします。
- 先ほど実行したSQL Serverのサイレントインストールが完了 していることを確認します。

以下のリンクからプログラムをダウンロードします。 https://ontimesuite.jp/forms/downloads/

ダウンロードして展開したフォルダに移動します。 展開したフォルダ¥OnTimeMS-x.x.x

"install.cmd"ファイルを選択しマウス右ボタンメニューから管理者として実行します。

インストールの確認画面(UAC画面)が開きますので「はい」を クリックします。



約1分程度のOnTimeインストール画面(参考)



```
コマンドプロンプト
が開きインストー
ルバッチが走り出
します。
```

```
F:¥OnTime¥OnTimeMS-2.8.2¥OnTimeMS-2.8.2¥cmd>sqlcmd -i "..¥sqlser
Changed database context to 'ontimems.25.8'.
F:¥OnTime¥OnTimeMS-2.8.2¥OnTimeMS-2.8.2¥cmd>PAUSE
続行するには何かキーを押してください . . . _
```

そのままリターン

```
F:¥OnTime¥OnTimeMS-2.8.2¥OnTimeMS-2.8.2¥cmd>sc config "ontime.ms
[SC] ChangeServiceConfig SUCCESS
F:¥OnTime¥OnTimeMS-2.8.2¥OnTimeMS-2.8.2¥cmd>pause
続行するには何かキーを押してください...
```

そのままリターン

```
SERVICE_NAME: ontime.ms.acs
TYPE : 10 WIN32_OWN_PROCESS
STATE : 2 START_PENDING
(NOT_STOPPABLE, NOT_PAUSABLE, IGH
WIN32_EXIT_CODE : 0 (0×0)
SERVICE_EXIT_CODE : 0 (0×0)
CHECKPOINT : 0×0
WAIT_HINT : 0×0bb8
PID : 4904
FLAGS :

F:\U00e7OnTime\U00e7OnTime\U00e7S-2.8.2\u00e4cmd>pause
続行するには何かキーを押してください..._
```

そのままリターン

```
SERVICE_NAME: ontime.ms.urlforwarder
TYPE: 10 WIN32 OWN_PROCESS
STATE: 2 START_PENDING
(NOT_STOPPABLE, NOT_PAUSABLE, IGNORES_SHUMIN32_EXIT_CODE: 0 (0x0)
SERVICE_EXIT_CODE: 0 (0x0)
CHECKPOINT: 0x0
WAIT_HINT: 0x7d0
PID: 1404
FLAGS: 
統行するには何かキーを押してください....
```

そのままリターン

```
SERVICE_NAME: ontime.ms.pollarity.urlforwarder
TYPE : 10 WIN32_OWN_PROCESS
STATE : 2 START_PENDING
(NOT_STOPPABLE, NOT_PAUSABLE, IGNORES_SHU
WIN32_EXIT_CODE : 0 (0×0)
SERVICE_EXIT_CODE : 0 (0×0)
CHECKPOINT : 0×0
WAIT_HINT : 0×7d0
PID : 3588
FLAGS :
続行するには何かキーを押してください...
```

そのままリターン

```
SERVICE_NAME: tomcat8

TYPE : 10 WIN32_OWN_PROCESS
STATE : 2 START_PENDING
(NOT_STOPPABLE, NOT_PAUSABLE, IGNORES_SHUM)
SERVICE EXIT_CODE : 0 (0x0)
CHECKPOINT : 0x0
WAIT_HINT : 0x7d0
PID : 1308
FLAGS : 
続行するには何かキーを押してください . . . . .
```

そのままリターン

```
Creating Metadata table: Ldbo].Lschema_version]
Current version of schema [dbo]: << Empty Schema >>
Migrating schema [dbo] to version 1 - create all tables release 1
Migrating schema [dbo] to version 2 - temporary add email date
Migrating schema [dbo] to version 3 - add dates to polls and users
Migrating schema [dbo] to version 4 - add timezone to poll
Migrating schema [dbo] to version 5 - add user email to failed call
Migrating schema [dbo] to version 6 - add casesensitivity to placeho
Migrating schema [dbo] to version 7 - set owner not null
Migrating schema [dbo] to version 8 - add config table
Migrating schema [dbo] to version 9 - add custom user emails
Migrating schema [dbo] to version 10 - non null created updated
Successfully applied 10 migrations to schema [dbo] (execution time (
続行するには何かキーを押してください . . . . .
```

そのままリターン

```
Installing the service 'Pollarity'...
Using CATALINA_HOME: "F:\Untime VonTimeMS-2.8.2\u00e4po
Using CATALINA_BASE: "F:\u00e4OnTime VonTimeMS-2.8.2\u00e4po
Using JAVA_HOME: ""
Using JRE_HOME: ""
Warning: Neither 'server' nor 'client' jvm.dll was found at JRE_HOME
Using JVM: "auto"
The service 'Pollarity' has been installed.
Do you want to enable pollarity' (y/n) :y_
```

"v"とリターン

```
Apache lomcat 8.5 Pollarity サーヒスを開始します.
Apache Tomcat 8.5 Pollarity サービスは正常に開始されました。
[SC] ChangeServiceConfig SUCCESS
Pollarity was successfully started
続行するには何かキーを押してください . . . . _
```

そのままリターン で完了





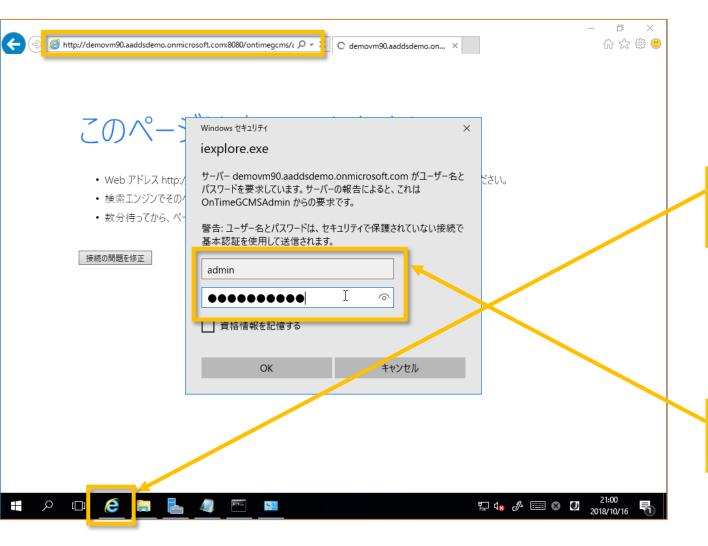


OnTime 管理 Centerで設定



OnTime 管理 Center を開く





- インストールが正常に完了していると以下のURLでOnTime 管理センターを開けます。 ポート8080の指定を必ずつけて下さい。
 - http://HOSTNAME:8080/ontimegcms/admin

タスクバーから「IE」などブラウザを選択して起動します。 セキュリティのダイアログが出れば「OK」をクリックします。

ログイン : admin

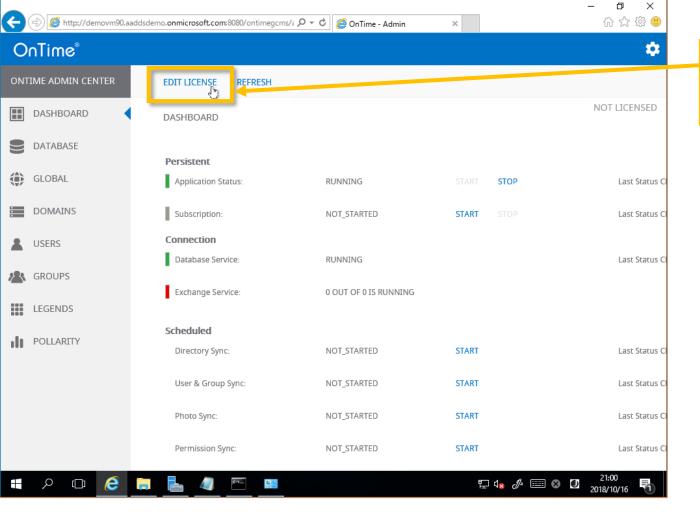
パスワード : Innovation

- パスワードの変更については以下のFAQを参照下さい。
 - https://www3.ontimesuite.jp/change-pw/





アクティベーションキーの登録





OnTime Admin Centerが開いたら 左上の「EDIT LICENSE」をクリックします。

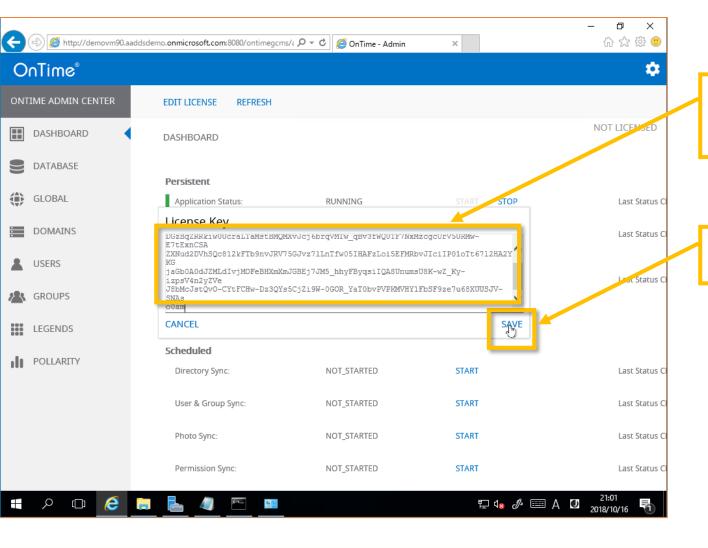
- アクティベーションキーは以下から入手可能です。
 - OnTime 正規販売パートナー
 - OnTime Group Calendar Direct Shop https://ontimesuite.jp/pricecalculator/
 - OnTime Group Calendar Direct Shop 1か月のトライアルキー トライアルキーはダウンロードした日からの1ヶ月で再発行は出来ませんのでご注意下さい。手順やテスト計画を充分に検討した上でお申し込み下さい。 https://ontimesuite.jp/forms/try/





アクティベーションキーの入力





OnTime Direct Shopから入手したアクティベーションキーを コピーして貼り付けて投入します。

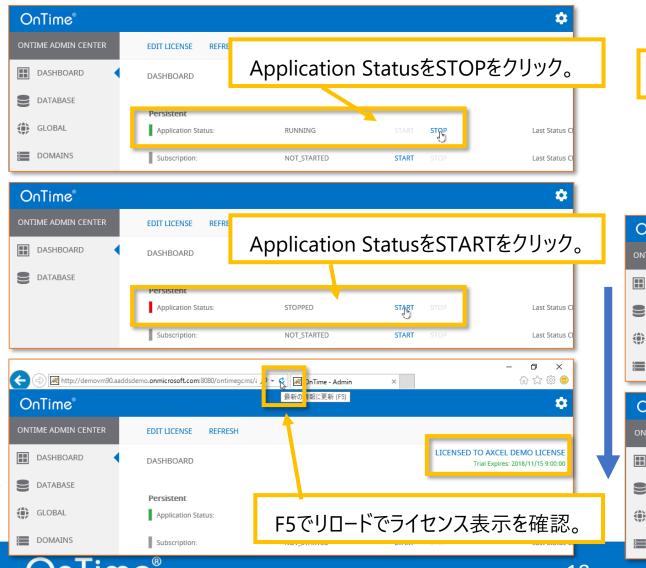
「SAVE」をクリックします。





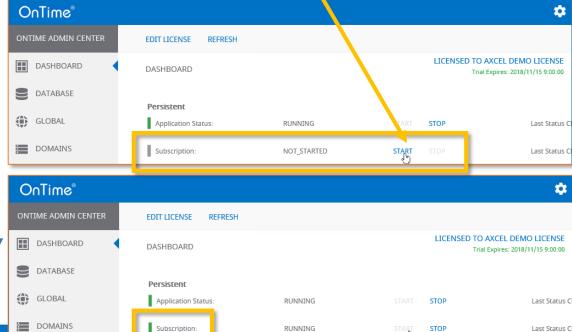
サブスクリプションのアクティベーション





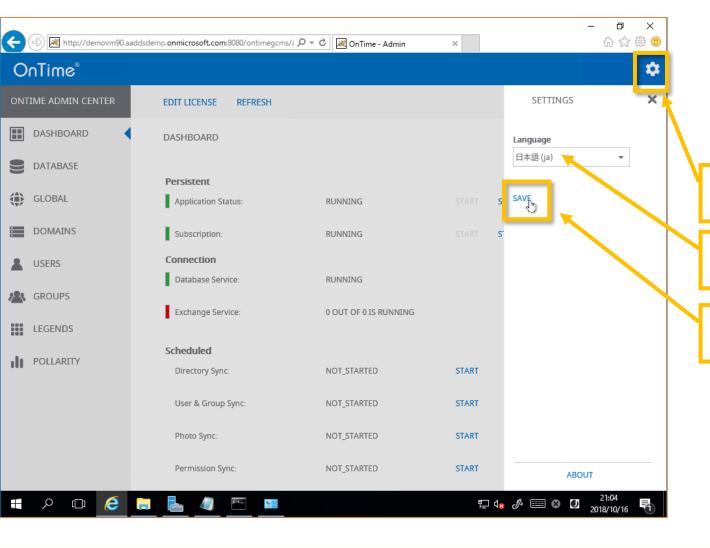
SubscriptionをSTARTでグリーンを確認。

• Subscriptionの グリーンランプを確認。



UIを日本語に切り替えます





- OnTime Admin Center の UI は英語と日本語に対応しています。
- 以後の操作は日本語画面で行います。

画面の右上の歯車アイコンをクリックします。

Language の選択を日本語に変更します。

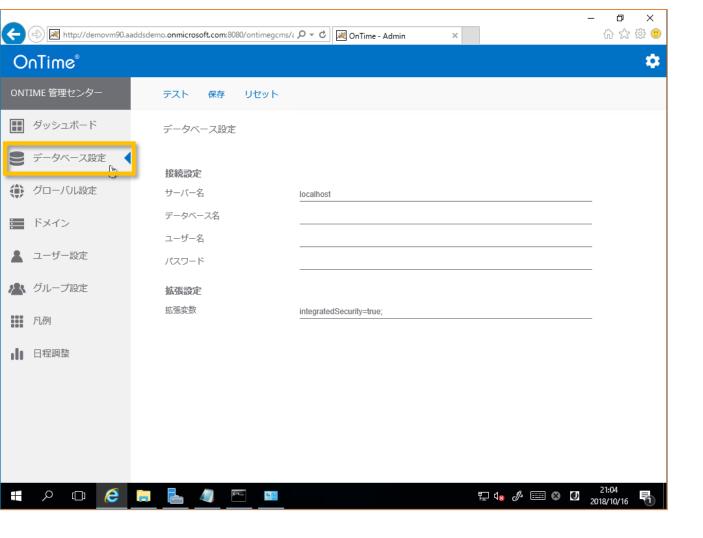
「SAVE」をクリックします。

画面がリロードされ日本語の UI に変更されます。



データベース設定を確認します。



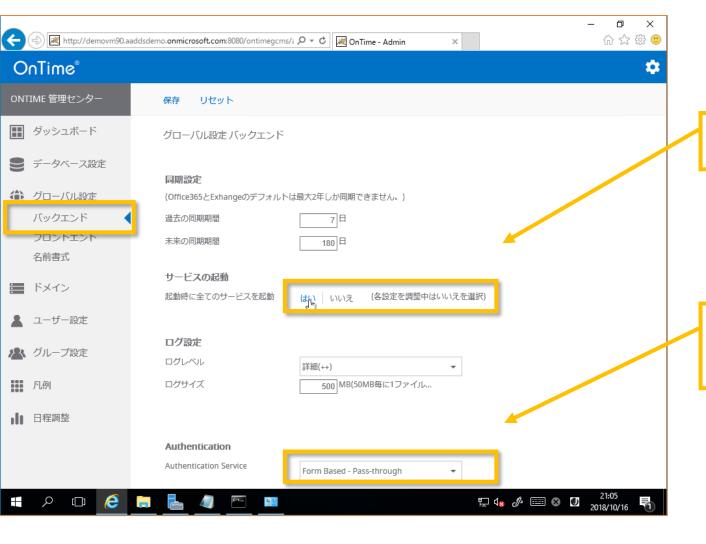


- 左サイドメニューで「データベース設定 |を選択します。
- 標準インストール以外のSQL環境をご利用になる際はこの 画面で接続情報の設定行います。



グローバル設定/バックエンドの設定をします





• グルーバル設定/バックエンドではOnTimeが動作するための各種設定を行えます。

サービスの起動で「はい」を選択します。

• 「はい」を選択する事でTomcat起動時にサブスクリプションを有効にしてOnTimeを自動起動に設定します。 初期設定を実施している際など頻繁に再起動をする場合は起動時の時間を短縮出来るため「いいえ」を選択する事も出来ます。

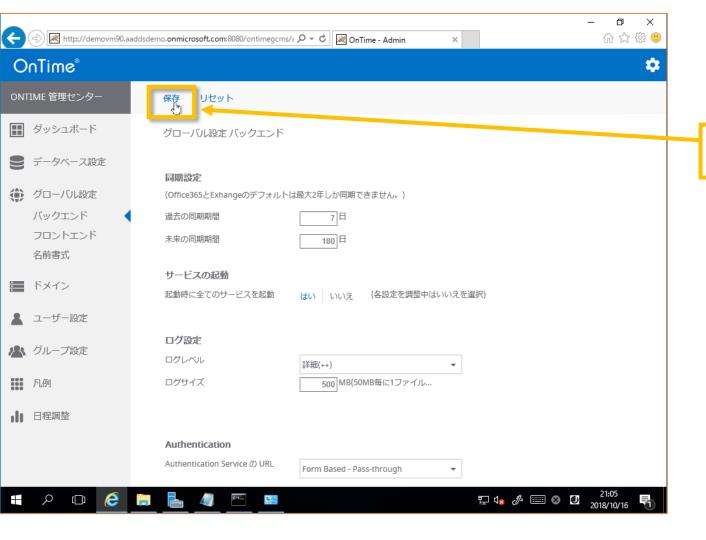
Authentication Serviceで 「Form Based – Pass-through」を選択します。

- OnTime は幾つかの認証方法に対応しています。 今回はシンプルなフォーム認証を使用します。 Office 365のアカウントとパスワードでログインされます。 詳細は以下のURLを参照下さい。 https://ontimesuite.jp/forms/microsoftdemo/
- また2ページ後ろにも抜粋を紹介。



設定を変更した場合は保存します





• 設定を変更した場合は画面の左上の「保存」をクリックします。

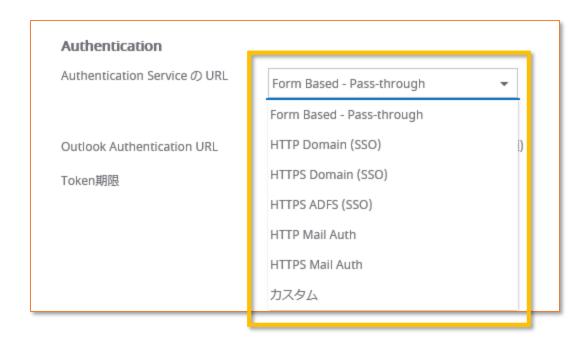
設定を変更したので「保存」をクリックします。

- 再起動を必要とする場合は画面上に再起動を即すメッセージが表示されます。
- 再起動するタイミングでダッシュボードでアプリケーションス テータスを「停止」した後に再度「実行」をクリックして再起 動します。
- 引き続き設定を行うので「保存」をクリックだけして再起動はしません。



(参考)OnTimeがサポートする認証の種類





- OnTimeは各種認証方式を選択出来ます。
- マルチドメイン(マルチテナント)での運用の場合はActive Directory Federation Servicesを利用できないためメール によるワンタイム認証を推奨します。
- 1. フォーム認証
 - 従来からのフォーム画面上でログイン名とパスワードを入力します
- 2. WEB認証 (HTTP/HTTPS)
 - Active Directory等にログインしたデバイスからのブラウザ接続によるSSO
- 3. Active Directory Federation Servicesによる組織認証 (HTTPSのみ)
 - Active Directory Federation Servicesの組織認証ヘリダイレクトによって認証するSSO
- 4. メールによるワンタイム認証 (HTTP/HTTPS) お勧め -
 - 指定したメールアドレスに認証用URLを送りURLにアクセス頂 く事で認証しTokenを付与する認証方式
- 5. カスタム
 - その他についてはご相談下さい



(参考)ワンタイム認証リンクメール1 メール送信







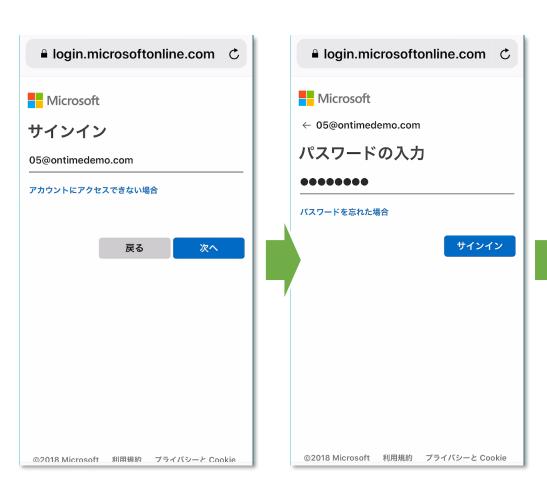


- そのデバイスから初めて接続した時に、ワンタイム認証用リンクを送信するメールアドレスを入力します。
- 画面はリロード用に そのまま



(参考)ワンタイム認証リンクメール2 受信メール確認







- Outlookにログイン します
- 受信した本人認証 確認メールを開きま す

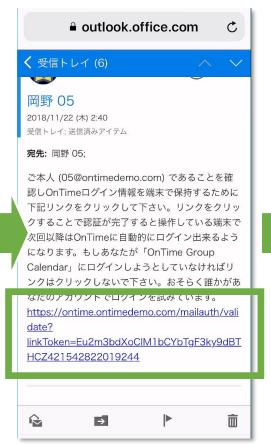




(参考)ワンタイム認証リンクメール3 リンクをクリック









- 本文にあるリンクを クリックしてOnTime サーバーからTokenを 受け取ります
- このリンクは一度クリックすると無効となります





(参考)ワンタイム認証リンクメール4 OnTimeを開く





OnTime®





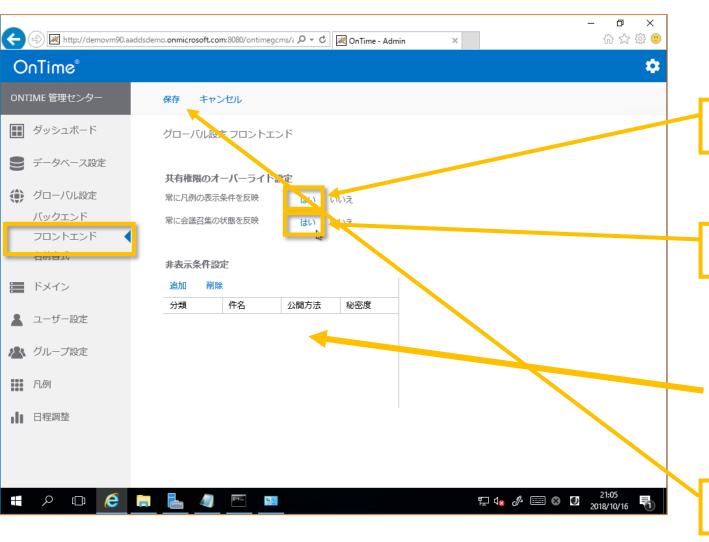
- 先ほどの画面に戻ってリロードするか、新たにOnTimeサーバーに接続するとOnTimeクライアントが開きます。
- ちなみに表示グルー プはタイトル部分を クリック





グローバル設定/フロントエンド





• グルーバル設定/フロントエンドではOnTimeクライアントのスケジュール表示の以下の設定が出来ます。

凡例の表示条件の反映を「はい」にします。

• 「空き時間情報の表示」しか権限が無くても凡例の色表示をするかしないかを指定します。

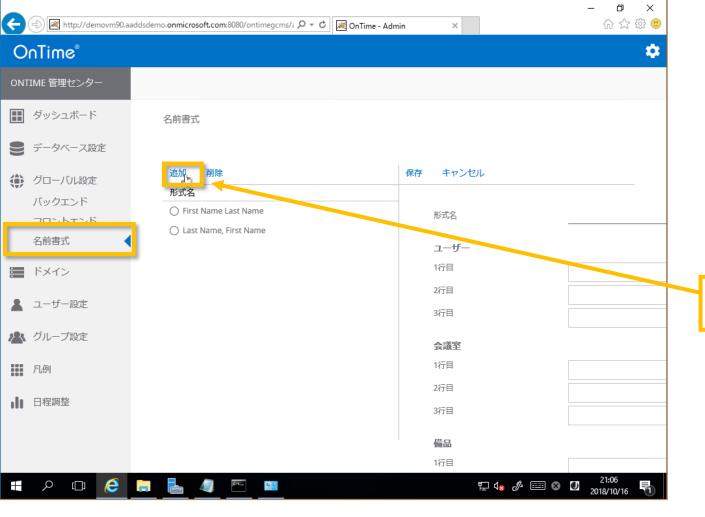
会議召集の状態の反映を「はい」にします。

- 「空き時間情報の表示」しか権限が無くて会議召集に応答していない場合にグレー表示にするかどうかを指定します。
- 非表示条件設定 OnTimeメインビューで本人以外は予定を表示しないように する条件を指定します。画面の通り「分類」「件名」「公開 方法」「秘密度」の組み合わせで指定できます。ハンズオン では設定しません。

設定を変更したので「保存」をクリックします。



グローバル設定/名前書式1





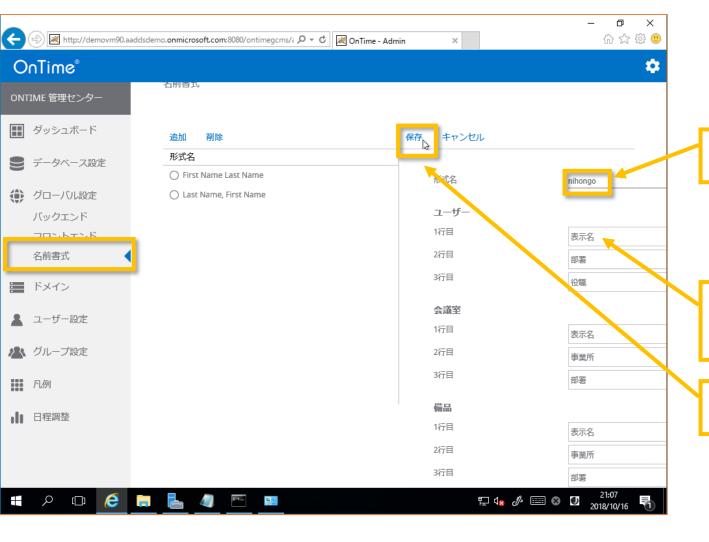
- OnTimeは1つのサーバーで各種言語に対応しているため、 複数のユーザー表記を設定できます。
- 「グローバル設定/名前書式」で作成した書式は「ユーザー設定」で選択出来るようになります。
- 「グローバル設定/名前表記」では各言語用に名前書式を作成します。
- 日本語用に1つ新規作成します。

「追加」をクリックします。



グローバル設定/名前書式2





• 形式名を例えば「nihongo」として、後ほど作成するユーザー設定で使用します。

形式名には"nihongo"と入力します。

• ユーザー、会議室、備品それぞれの表示用にADの属性名を指定します。選択肢には"表示名"、"事業所"、"部署"や"メールアドレス"などがあります。

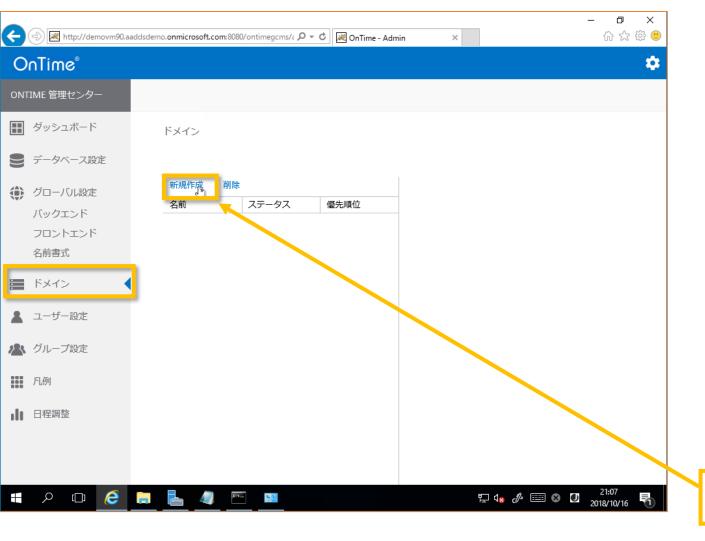
1行目を「表示名」とします。2,3行目は選択しなくても構いません。会議室、備品も同じく入力します。

準備出来れば上の方にある「保存」をクリックします。



ドメイン設定 (1つめのテナント) 1





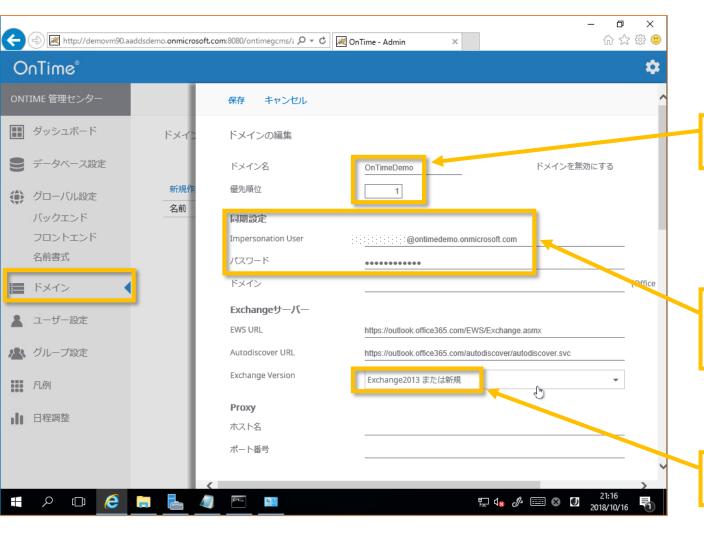
- ドメインではOnTimeと接続するExchange Online またはオンプレのExchangeサーバーを設定します。
- OnTimeは複数のテナントと接続することも可能です。 よってOnTimeが稼働するテナントであるかは必須条件ではありません。
- Exchangeドメイン(テナント)に接続するために必要な Exchange側の設定は以下の通りです。
 - Impersonation User (偽装ユーザー)
 - グループ
 - アクセス権限
 - 詳細は各種マニュアルをご参照ください。
 https://ontimesuite.jp/downloads/downloadms/

"新規作成"をクリックします。



ドメイン設定 (1つめのテナント) 2





• ドメイン名はOnTime 管理センターで識別しやすい名前をつけます。通常はテナント名です。

例:"OnTimeDemo"と入力します。優先順位:"1"を入力。

 優先順位は複数のテナントを接続する際、場合によっては同じメールアドレスのユーザーがいた場合にどちらのドメインを優先するかを決めます。 例えば、オンプレとクラウドのハイブリッド環境の移行時などに有効です。

接続するテナントで予め準備した Impersonation User とパスワードを入力します。

EWSやAutodiscoverのURLはOffice 365の場合はデフォルトのままです。オンプレのExchangeの場合はホスト名を変更します。

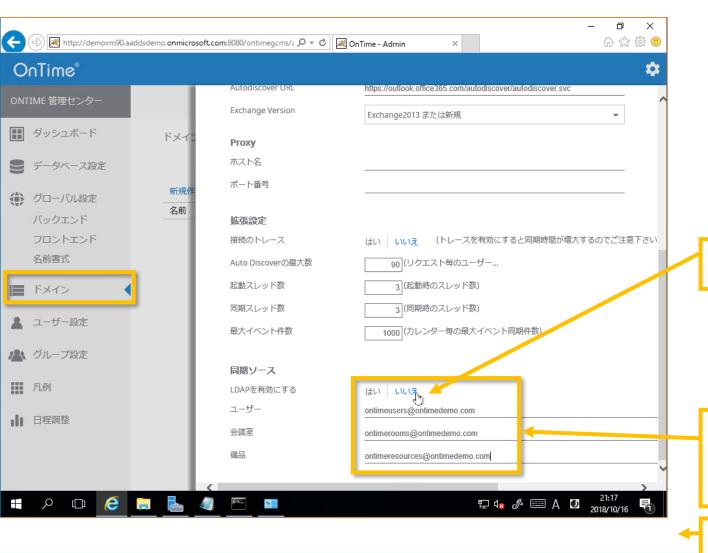
「Exchange2013または新規」を選択します。

Exchangeのバージョンを指定します。



ドメイン設定 (1つめのテナント) 3





- Proxy設定はExchangeに接続する際に必要とする場合だけ設定します。
- 拡張設定は変更しません。
- 同期ソースは「LDAP」か「グループメールアドレス」のどちらかで指定します。
- ここではグループメールアドレスで指定するとします。

"LDAPを有効にする"で「いいえ」をクリックします。

- 次にOnTimeと同期するリストをグループ化したグループのメールアドレスを指定します。
- OnTimeで表示する、または操作出来るいずれの場合でも 含まれている必要があります。

予め準備したご利用のドメインの ユーザー、会議室、備品の それぞれに指定されているメールアドレスをコピーして貼り付け ます。

設定後は上までスクロールで戻り「保存」をクリックします。



ドメイン設定 (1つめのテナント) 4 LDAP



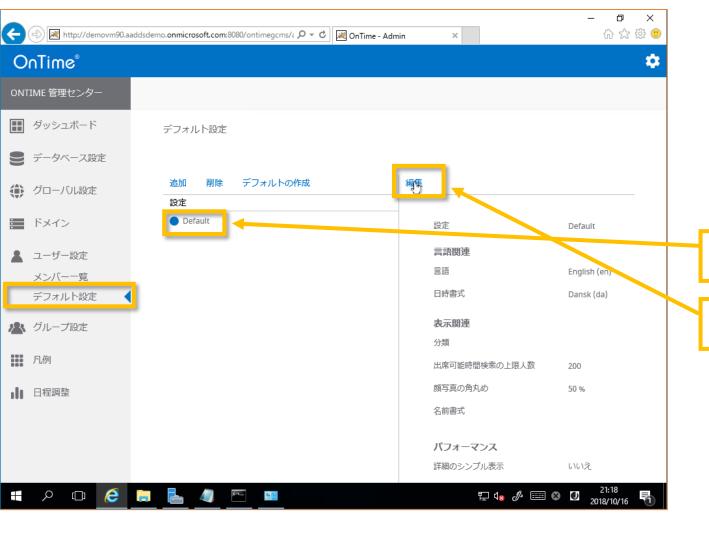
同期ソース				1	
LDAPを有効にする	はい いいえ				
URL	ldap://obizad.ontime.otbz:389				
ユーザー	CN=::::::::::::::::::::::::::::::::::::	C=otbz	テスト		
パスワード	(present)				
検索条件					
ベース	OU=o365,DC=ontime, DC=otbz		テスト		
スコープ	SUB_TREE -	,			
フィルター	(cn=*)				
ベース	OU=o365,DC=ontime, DC=otbz		テスト		テスト
スコープ	SUB_TREE -	-)tjp	
フィルター	(mail=*)				
	検索条件				
	ベース	CN=Users, DC=ontime, DC=otjp			テスト
	スコープ	SUB_TREE	•		
	フィルター	(cn=OnTimeRooms)			
	ベース	CN=Users, DC=ontime, DC=otjp			テスト
	スコープ	SUB_TREE	-		
	フィルター	(cn=OnTimePersons)			

- ADなどExchangeと連携しているDirectoryに対してLDAPで同期対象を取得します。
- LDAPを使用するとExchangeへのEWSでは取得出来ない 例えばフリガナ属性やカスタム属性なども取得してOnTime で活用できます。
- 左図を参考に組織に応じたフィルター条件で取得して下さい。
- 左上 特定の属性に値があるアカウントを全て取得
- 右下 特定のグループに属しているアカウントを全て取得



ユーザー設定/デフォルト設定1





- 各ユーザー向けの各種初期設定を設定します。
- デフォルト以外に特定のユーザーやグループ向けの設定も準備出来ます。
- ここではデフォルト設定のみ作成します。

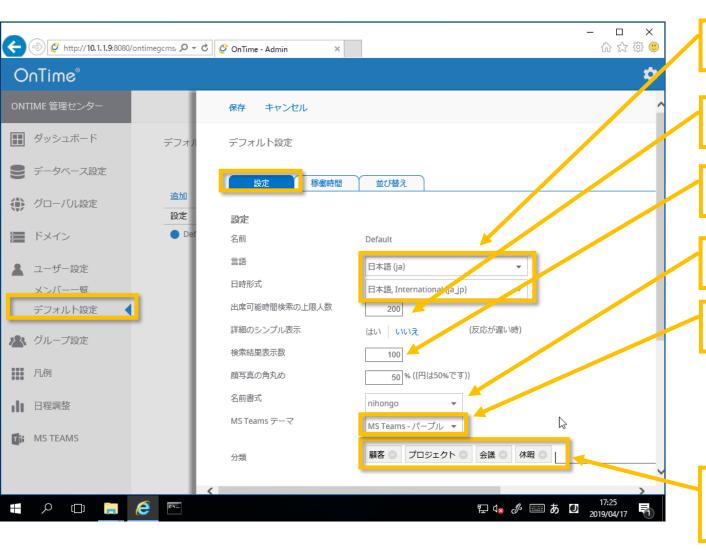
「Default」をクリックして選択します。

「編集」をクリックします。



ユーザー設定/デフォルト設定 2





言語と日時形式をそれぞれ「日本語」に指定します。

空き時間検索を行う際の対象の上限を制限します。

検索結果をポップアップリストで表示する上限を制限します。

名前書式では先ほど作成した「nihongo」を指定します。

Teamsで表示する際のカラーデザインを選択します。

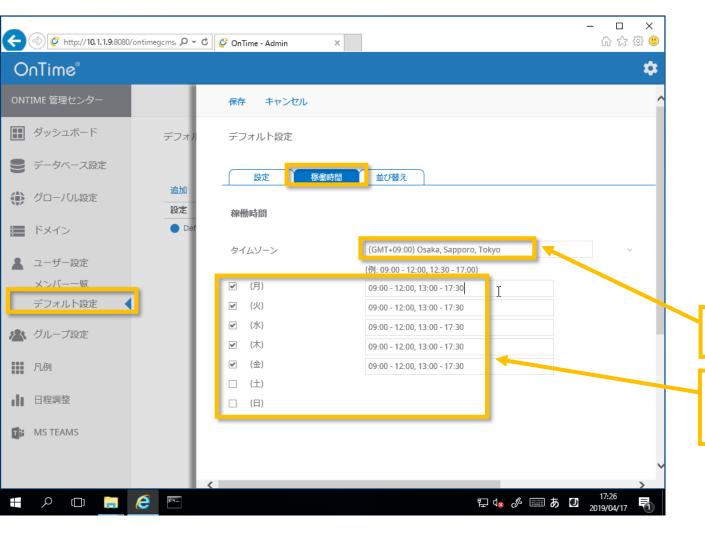
• 分類はOutlookでいう分類と同じ項目です。本ハンズオンでは「色」ではなく業務内容の分類に近い項目「顧客」「教育」などを作成します。登録は項目名を入力した後に改行キーで登録出来ます。

"顧客"と入力して改行。"プロジェクト"と入力して改行。"会議"と入力して改行。"休暇"と入力して改行。と続けます。



ユーザー設定/デフォルト設定3





タイムゾーンは日本時間の「GMT+09:00」を選択します。

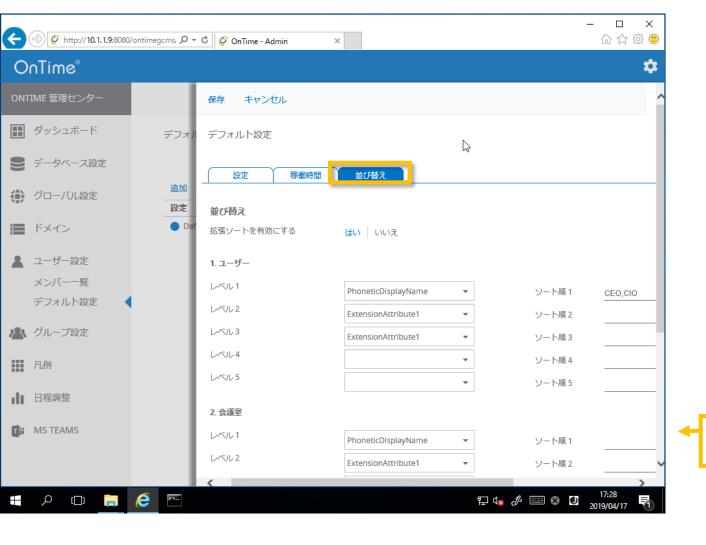
自社の業務の時間、例えば "09:00-12:00,13:00-17:30" をそのまま入力します。

• 各曜日の稼働時間を背景表示するための時間を指定出来ます。



ユーザー設定/デフォルト設定 4



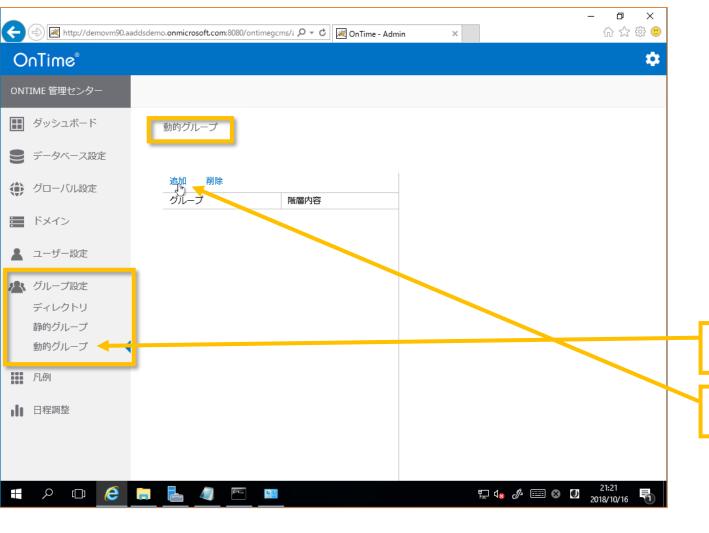


- 標準の並び替えは通常FirstName、LastNameです。
- 「拡張ソート」を有効にするとADの属性を使用して並び替えが出来ます。
- 但し、同期対象をLDAPに指定しないとADの属性は取得 出来ないのでご注意下さい。
- 表示名のフリガナや拡張属性1-15も利用できます。
- 右のソート順は、選択したADの属性の値をUNICODE順に ソートするところを無条件に一番上に持ってきたい文字列を 指定します。
- 例えば、CEO,CIO,CSO,部長,課長と入力するとそれらを並べた後でその他の役職がUNICODE順に並びます。



グループ設定 (表示用グループ)





- OnTimeでは組織アドレス帳のように組織を階層表示して その組織名(グループ名)をクリックすることでメインビュー に所属するメンバーのスケジュールを表示することが出来ます。
- グループ設定には以下の3つの方法があります。
 - ディレクトリ Active Directory上のグループをそのまま利用します。
 - 静的グループ Active Directoryのグループのようにユーザーやグループを登録。 メンバーリストはマニュアルで並び替えが出来ます。
 - 動的グループ Active Directory属性の値でグルーピングして組織を表現します

「動的グループ」を選択します。

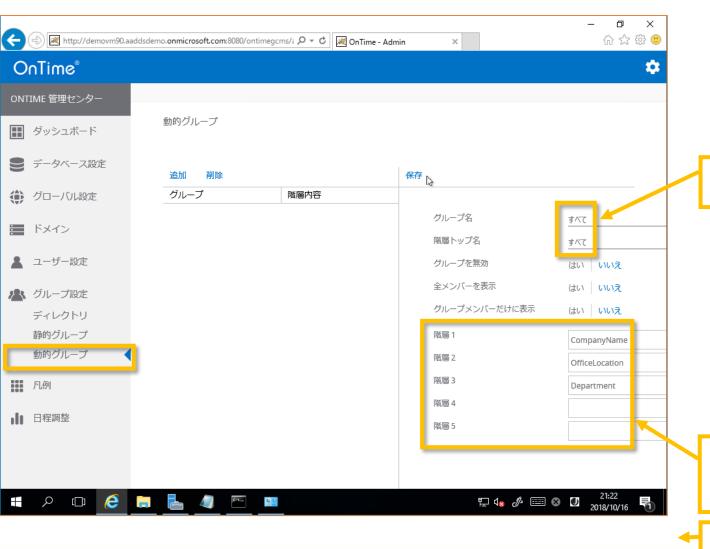
「追加」をクリックします。

- ・ 階層化グループについては以下のFAQを参照。
 - https://www3.ontimesuite.jp/hier-group-mix/
- ・ (補足)クライアントでユーザー自身もグループを作れます。



グループ設定/動的グループで1つ目を作成





- グループ名は管理センター内での名称です。
- ・ 階層トップ名は作成される階層ツリーのトップ名を設定します。 OnTimeクライアントではツリーの最初にクリックする名称になり ます。

グループ名に"すべて"、階層トップ名に"すべて"を入力します。

- "グループを無効"を「はい」にするとこのグループを一時的に使用できなくできます。本ハンズオンでは「いいえ」のままにします。
- ・ "全メンバーを表示"を「はい」にすると属性設定なしで同期対象 の全メンバーが表示されるグループが作成されます。本ハンズオ ンでは「いいえ」のままにします。
- "グループメンバーだけに表示"を「はい」にするとOnTimeクライアントにログインしたユーザーが所属するグループだけが表示されます。本ハンズオンでは「いいえ」のままにします。
- ・ 階層 $1\sim5$ はADの属性を必要な階層数で指定します。

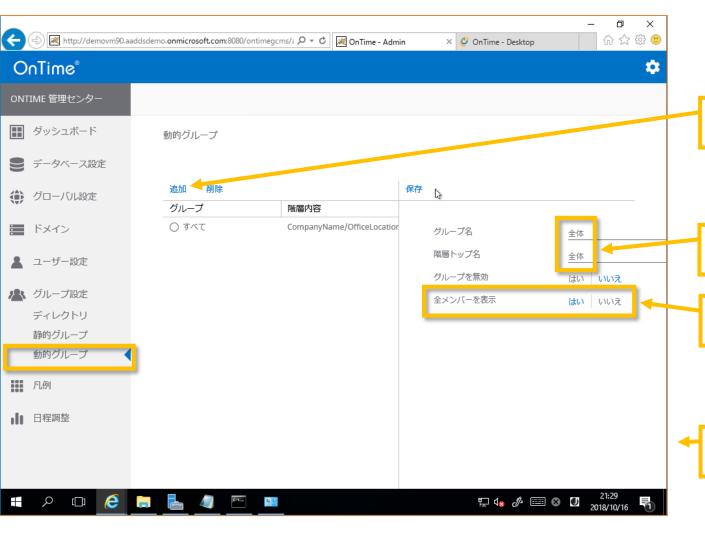
階層 1, 2, 3 をそれぞれ"CompanyName", "OfficeLocation", "Department"をそれぞれ選択します。





グループ設定/動的グループで2つ目を作成





• 全メンバーを表示するグループも作成しておきます。

「追加」をクリックします。

• 先ほどのグループと階層トップ名を同じにしても別にしても構いません。本ハンズオンでは別名を設定します。

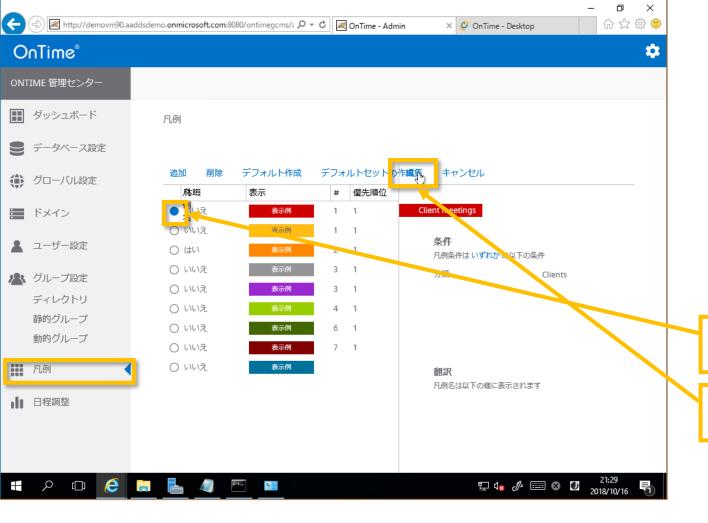
グループ名に"全体"、階層トップ名に"全体"を入力します。

"全メンバーを表示"で「はい」をクリックします。

• 全メンバーを表示で「はい」を指定することでAD属性を選択できる階層レベル項目が非表示になります。



凡例設定画面





- OnTimeの凡例とはOnTimeクライアントで予定を表示する際の色分けの設定となります。
- Outlookの分類とは若干違い、件名や公開方法なども条件にできます。
- ユーザーごとの設定ではなくOnTime全体での設定となりますので、どなたの予定であっても色を見るだけで内容の識別が可能となります。
- いずれかの凡例設定を選択し「編集」をクリックします。本 ハンズオンでは一番上の赤色の設定を選択します。

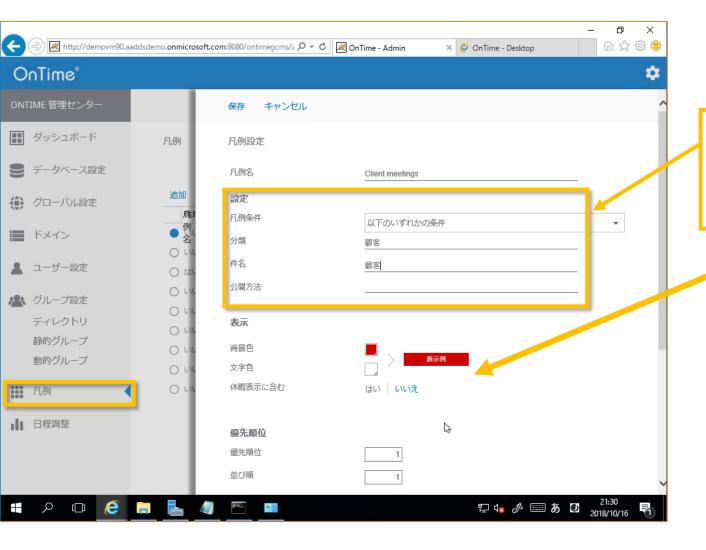
一番上の赤背景の●の部分をクリックします。

「編集」をクリックします。



凡例の設定画面に条件などを付与します





「凡例名」は管理センターでの識別用です。

条件は"分類"、"件名"と"公開情報"をAND条件かOR条件で設定します。

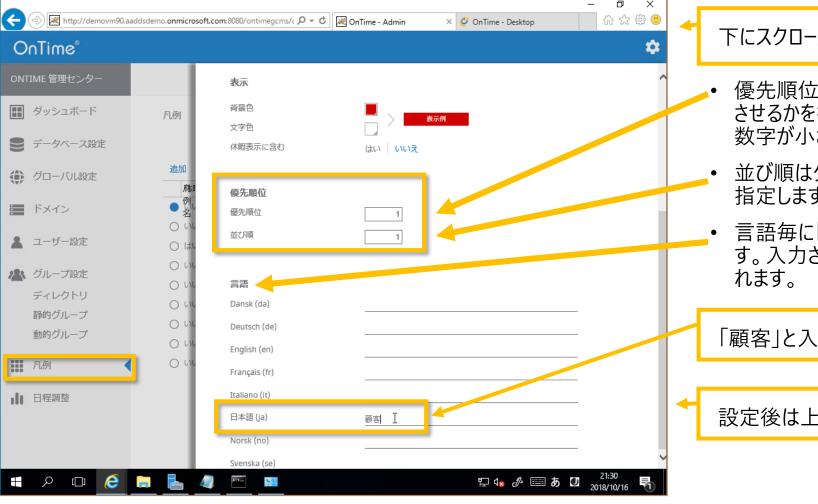
件名は部分一致の文字列を入力します。

- 色指定を変更できます。
- 「休暇表示に含む」は休暇専用の長期予定を見るビューに表示させるかどうかを指定します。



凡例の設定画面で日本語情報も付与します





下にスクロールします。

- 優先順位は凡例条件が競合した場合にどちらの色を表示 させるかを指定します。 数字が小さいと強くなります。
- 並び順はクライアント画面左下の「凡例一覧」の並び順を 指定します。
- 言語毎に「凡例一覧」に表示する際のタイトルを入力しま す。入力されていない場合この設定の「凡例名」が使用さ

「顧客」と入力します。



アプリケーションステータスでOnTimeの再起動







• ドメイン情報などを変更した場合はOnTimeサービスの再起動が必要になります。

左タブでダッシュボードに移動します。

「アプリケーションステータス」で停止をクリック。

「アプリケーションステータス」で実行をクリック。

• 下の囲みのステータスが全てグリーンなのを確認します。





続いてスケジュールで初回同期の実行





- 続いて初回のシンク(同期)を行います。
- OnTimeは通常はリアルタイムにシンクしますが起動時は手動で行います。

ダッシュボードを下にスクロールしてスケジュールに移動します。 Directory Syncを実行します。

STOPPEDで完了したことを確認します。

続いてPhoto Sync、Permission Sync、Event Syncを実行します。この3つは同時に実行しても構いません。

• 全てのSyncがSTOPPEDになるのを確認します。









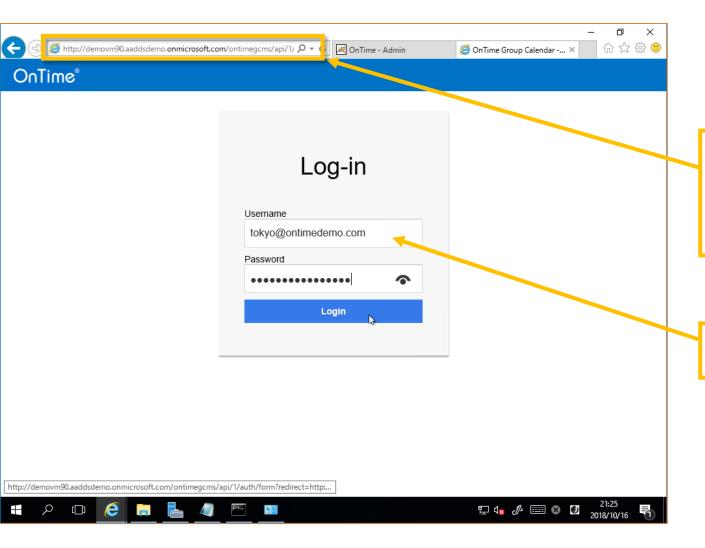


OnTimeクライアントを起動します



OnTimeクライアントを起動して動作確認します





• これまでの設定で正常に動作しているかをOnTimeクライアントを起動して確認します。

通常はOnTimeをインストールしたサーバーホスト名に /ontimegcms/desktopを付与したURLで接続出来ます。 例えば以下の様なURLに鳴ります。 http://HOSTNAME/ontimegcms/desktop

• フォーム認証モードなので直接ログインユーザーとパスワードを 入力します。

ログイン名とパスワードはExchangeと同じです。

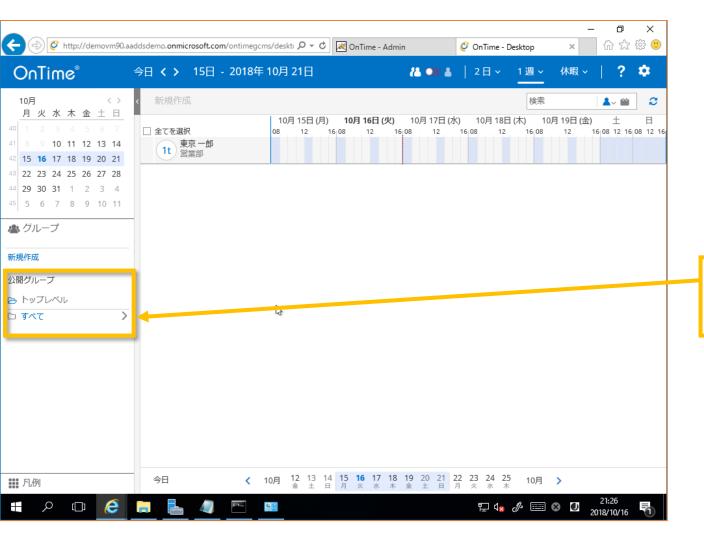
SSLによるhttps接続を行う手順については以下のURLを参照下さい。
 https://www3.ontimesuite.jp/ssl-cert/





OnTimeクライアントを開いた初期画面





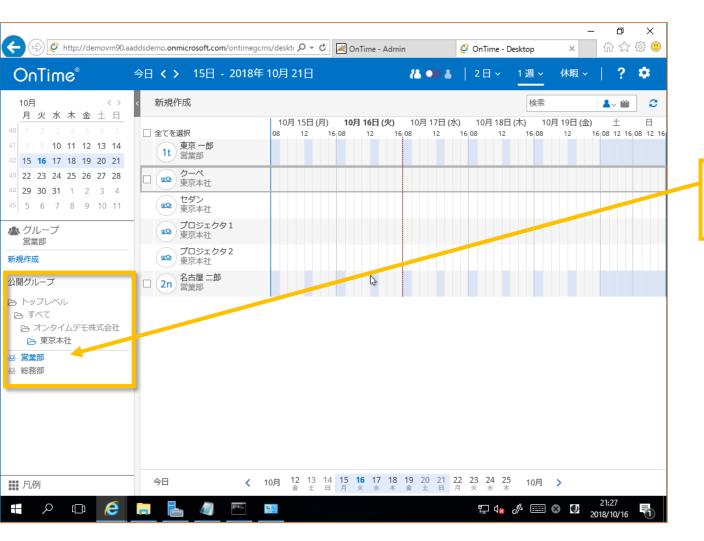
- 無事にログインし画面が表示されることを確認します。
- デフォルト設定を行っているので表示が日本語になっています。

公開グループから先ほど作成した動的グループのトップレベル名の「すべて」をクリックします。



OnTimeクライアントで階層グループを確認します





• 組織階層をクリックしていくことで自動生成された組織を 下っていけます。

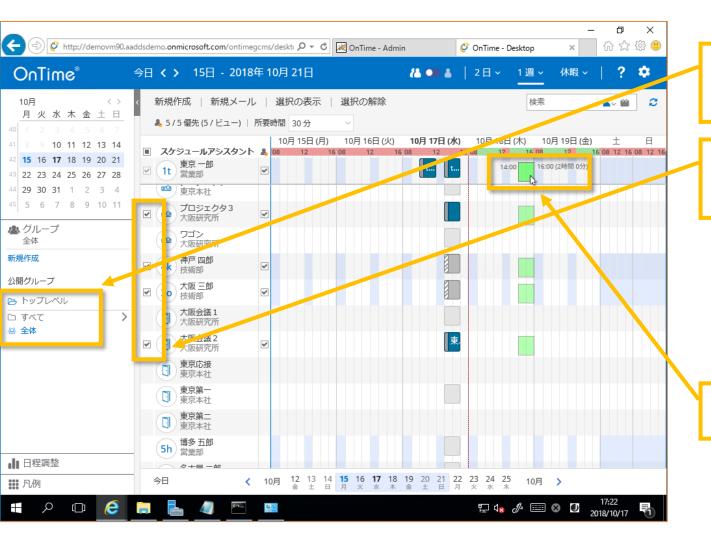
組織名を右にユーザー一覧が表示されるまでクリックしていきます。

• グループを選択してメインビューにメンバー一覧が表示される ことを確認します。



会議を作成してみます





公開グループの「トップレベル」に戻ります。 次に公開グループを「全体」に切り替えます。

メンバー名の左空白をクリックすることでチェックマークを付けることができます。

- チェックをつけるとタイムスケールで以下の3種類の色分けがされます。
 - グリーン 全員が参加できる時間
 - レッド 誰かが参加できない時間
 - ホワイト 空いているが所要時間を満たさない時間

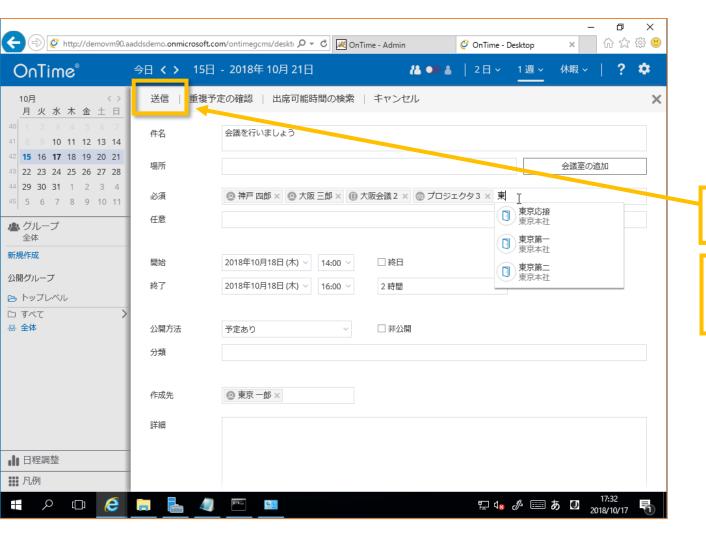
いずれかの参加者の行で希望日時でマウスをドラッグします。

次のページのような画面が開きます。



会議イベントの作成編集画面が開きます



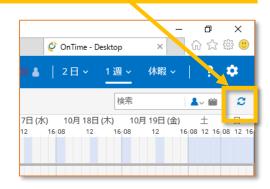


- この画面からExchangeの予定表イベントを作成できます。
- データストアがExchangeなので項目ももちろん同じになります。

適宜加筆修正した後に「送信」をクリックします。

数秒お待ち頂き、右上の検索窓の右のリフレッシュアイコンをクリックします。

OnTimeのメインビューで会議イベントが表示されることを確認ください。







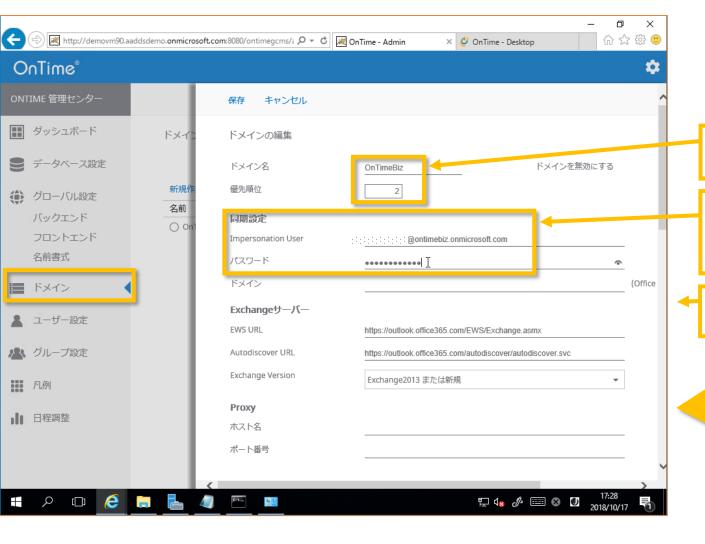


OnTimeサーバーのその他の設定



ドメイン設定 (2つめのテナント)





• 二つ目以降のOffice 365テナントも追加出来ます。

優先順位は重複するメールアドレスの判定に使います。

1つめのテナントと同様にImpersonation Userの設定と同期グループアドレスかLDAPでテナントへの接続を設定します

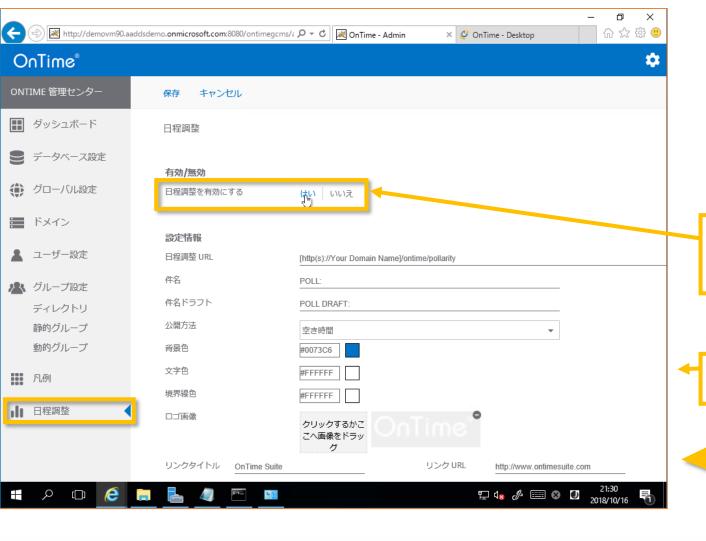
設定後は上までスクロールで戻り「保存」をクリックします。

ドメインを追加したのでダッシュボードに移動して以下の手順 を実行して下さい。

- 1. 「アプリケーションステータス」で停止
- 2. 「アプリケーションステータス」で実行
- 3. 「Directory Sync」で実行、STOPPEDを確認
- 4. 「Photo Sync」、「Permission Sync」、「Event Sync」をそれぞれ同時実行



日程調整オプションの設定



- 日程調整オプションは複数の会議候補日時を参加予定者に送信し多数決を取って最終的に会議イベントを送信出来る有料オプションです。
- 詳細は以下のURLを参照下さい。
 - https://ontimesuite.jp/forms/pollarityms/
- ご利用になるには有効なアクティベーションキーを登録後に 機能を有効にする必要があります。

日程調整を開き「日程調整を有効にする」で「はい」をクリックします。

設定画面ではリンク先に設定やロゴの登録など指定できるようになっています。

設定後は上までスクロールで戻り「保存」をクリックします。

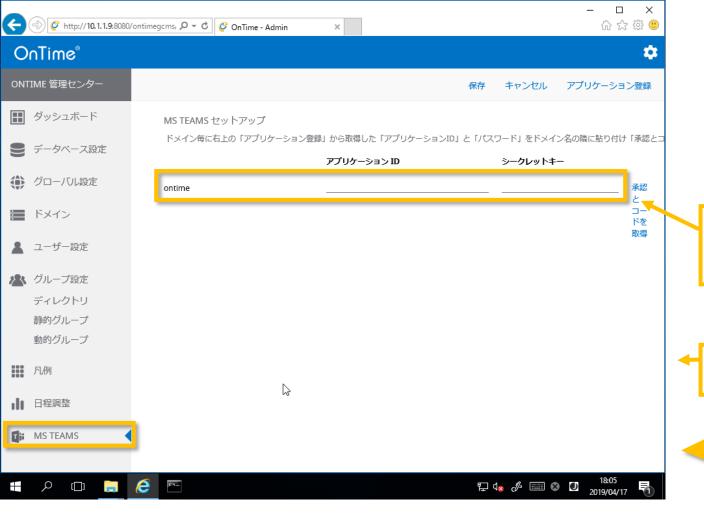
設定を変更したのでダッシュボードに移動して前頁と同じく

- I. 「アプリケーションステータス」で停止
- 2. 「アプリケーションステータス」で実行
- 3. 各シンク処理 を実行してください。





Microsoft Teamsの設定



- OnTime for Microsoft Teamsはチームの各タブに OnTimeを追加出来る機能です。
- 詳細については以下のURLを参照下さい。
 - https://ontimesuite.jp/forms/teams/
- 設定手順については以下のURLを参照下さい。
 - https://ontimesuite.jp/data/pdf/OnTime-Teamsinstall-Manual-190415.pdf

アプリケーションIDとクライアントシークレットの登録で紐付けます。

• 設定画面では複数のOffice365テナントと接続出来るようになっています。

設定後は「保存」をクリックします。

設定を変更したのでダッシュボードに移動して前頁と同じく

- 1. 「アプリケーションステータス」で停止
- 2. 「アプリケーションステータス」で実行
- 3. 各シンク処理 を実行してください。



